

AUTOMATION CASE STUDIES

業務自動化 導入事例集

建設・住宅業界のバックオフィスを、
「作業」から「価値創造」へ。

住宅会社A社 × 住宅会社B社

2社に共通したのは、入力作業を減らし データを“使える状態”に変えたこと

CASE 01

住宅会社A社

集客・予約・領収書管理など、
日々積み重なる細かな業務を自動化。
データ収集から確認・改善へシフト。

CASE 02

住宅会社B社

原価・請求書・紹介案件など、
経理部門の定型業務を自動化。
手入力中心からリアルタイム把握へ。

共通テーマ：人を減らすためではなく、人が考える時間を増やすための自動化

CASE 01

住宅会社A社

小さな業務摩擦を取り除き、
データを起点に改善できる組織へ

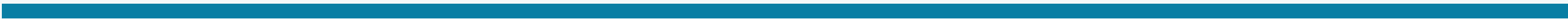
集客データ | 予約情報 | イベント管理 | 領収書保存

CASE 01

住宅会社A社

業務自動化の軌跡

「ちまちま作業」からの解放と、データ起点の組織づくり



見えない摩擦が奪っていた「考える時間」

- ・ 毎日繰り返される「ログイン」「コピー&ペースト」「目視確認」
- ・ 1回は5～10分でも、積み重なることで生まれる多大な「心理的負荷」
- ・ スタッフの意識が「データを使うこと」ではなく「データを集めること」に向いてしまう構造的なジレンマ

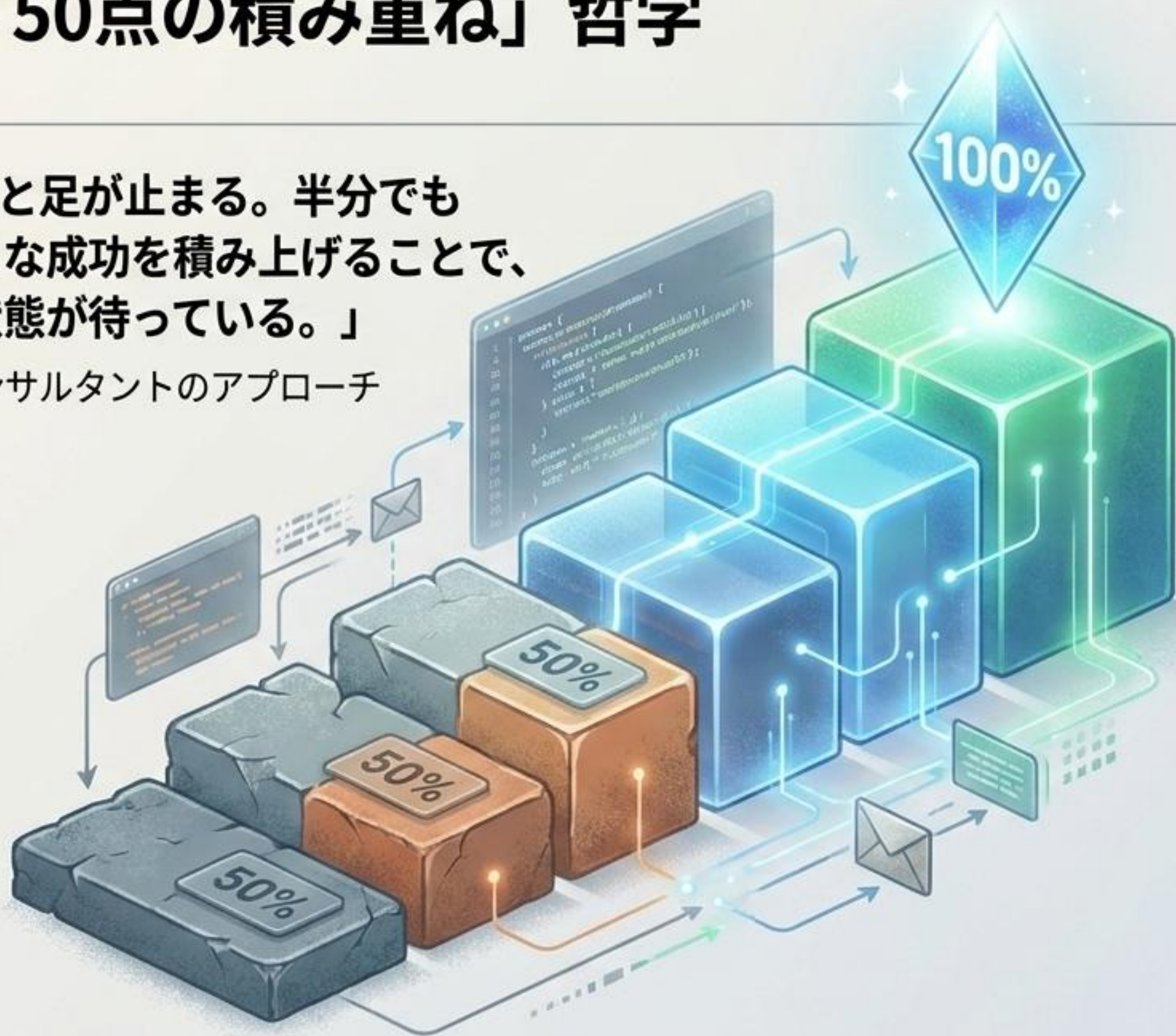


自動化を成功に導いた「50点の積み重ね」哲学

「最初から100（全自動）を目指すと足が止まる。半分でも楽になったらラッキー、という小さな成功を積み上げることで、最後に『劇的に楽になっている』状態が待っている。」

—— コンサルタントのアプローチ

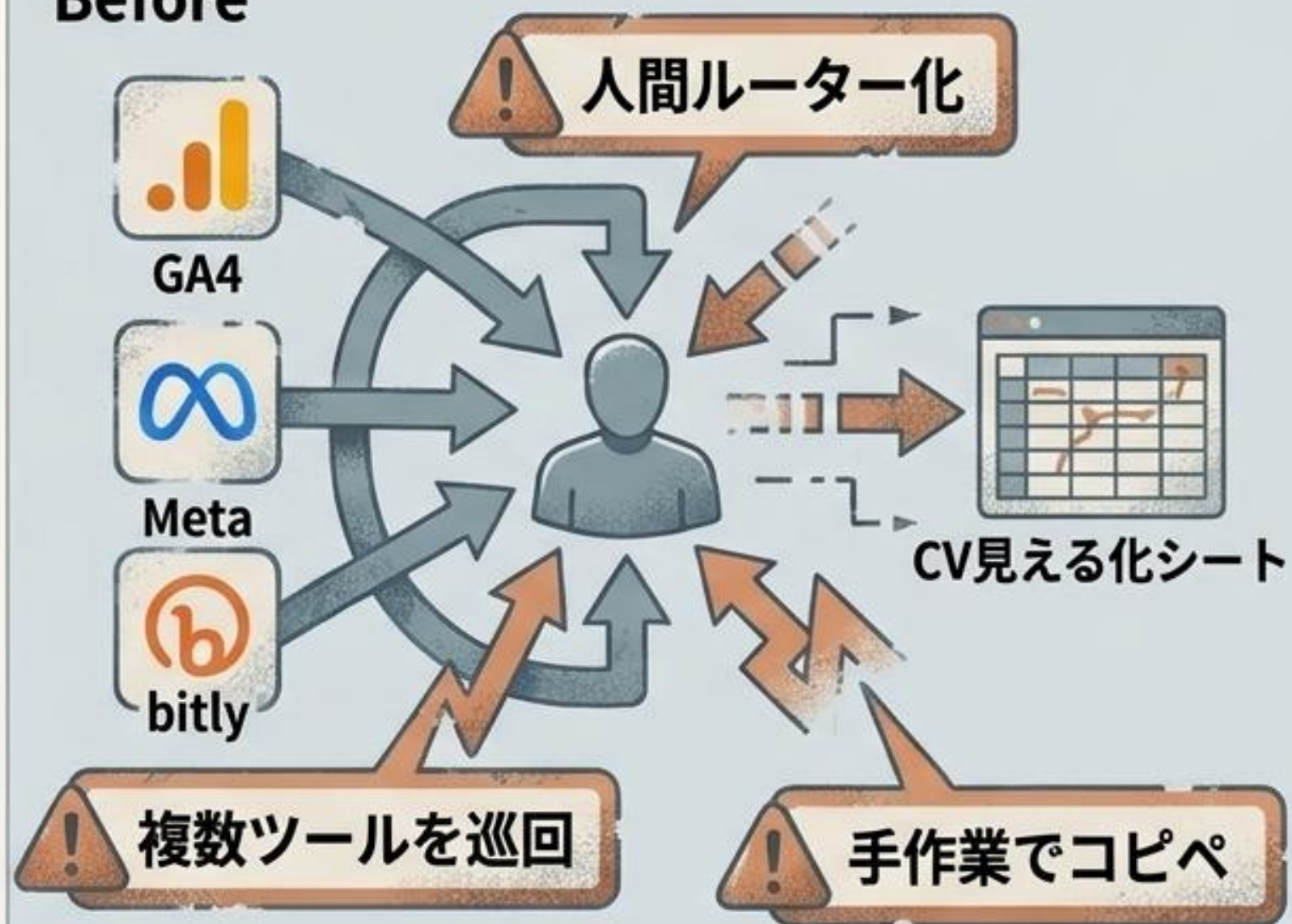
- いきなり巨大なシステムを導入しない
- 日常の小さな「面倒くさい」を一つずつ切断する
- スタッフが変化に順応するスピードに合わせて拡張する



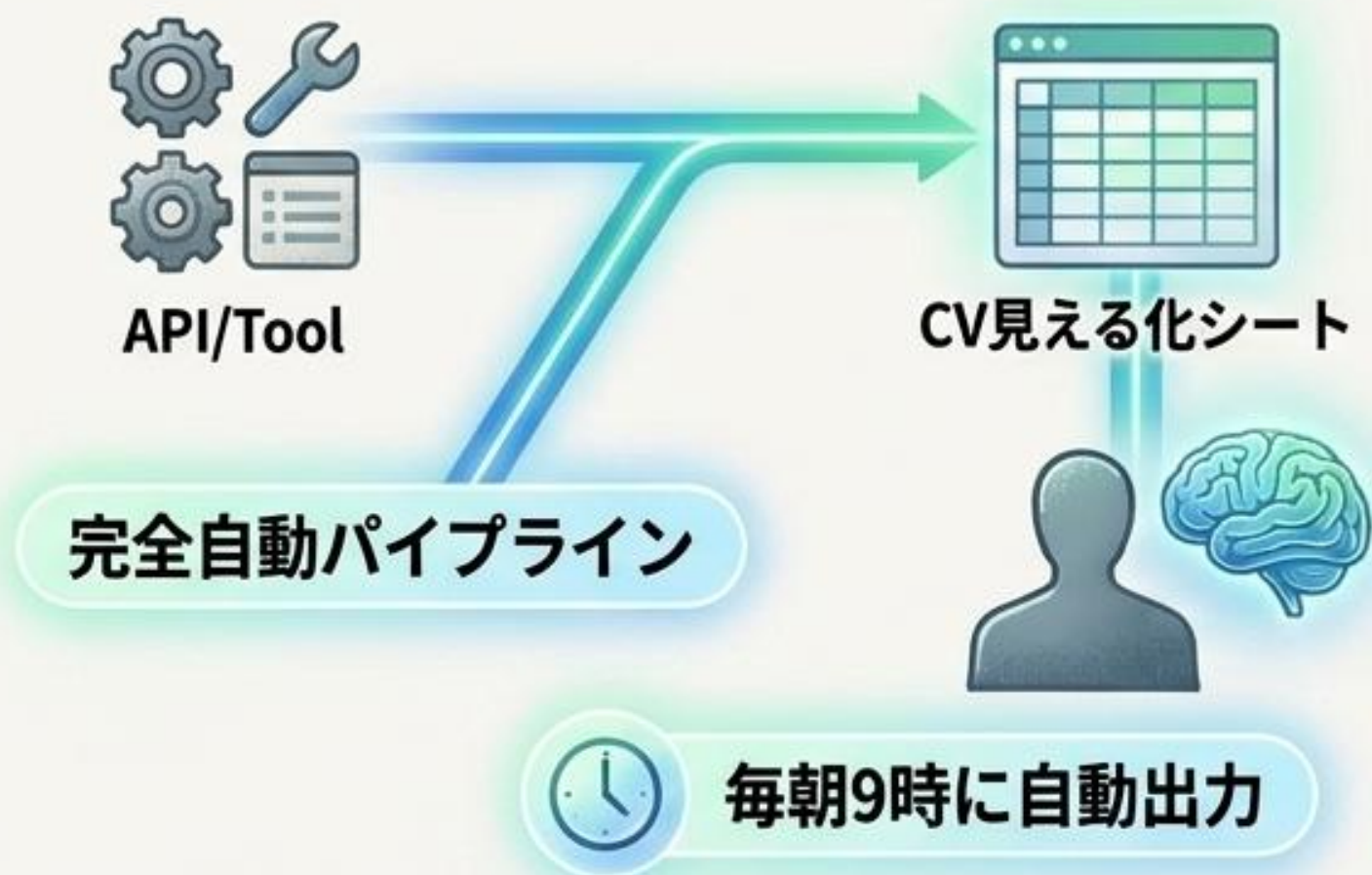
【Case 1】データの「収集」から「確認」へのシフト

各種Web・広告数値の集計業務

Before



After



【Case 2】 予約情報のリアルタイムな交通整理

問い合わせ・イベント予約のコンバージョン（CV） 反映

Before



After



【Case 3】 変化に追従する動的なイベント管理

月次・スポットイベント（〇〇様邸見学会など）の管理

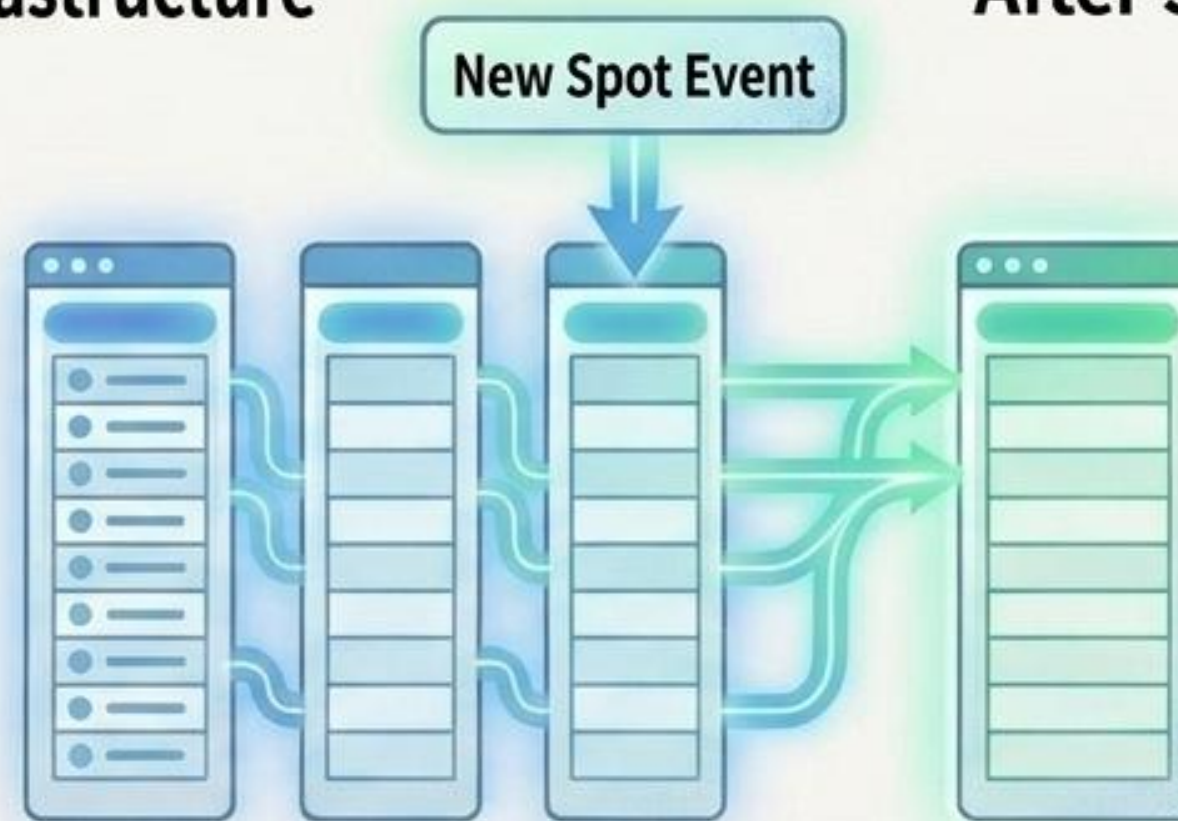
Before State



過去の限界：月が変わるたびにシートを複製し、新しいMeta広告のキャンペーン名を手作業で紐付け・数式変更。

Static vs Dynamic Infrastructure

After State

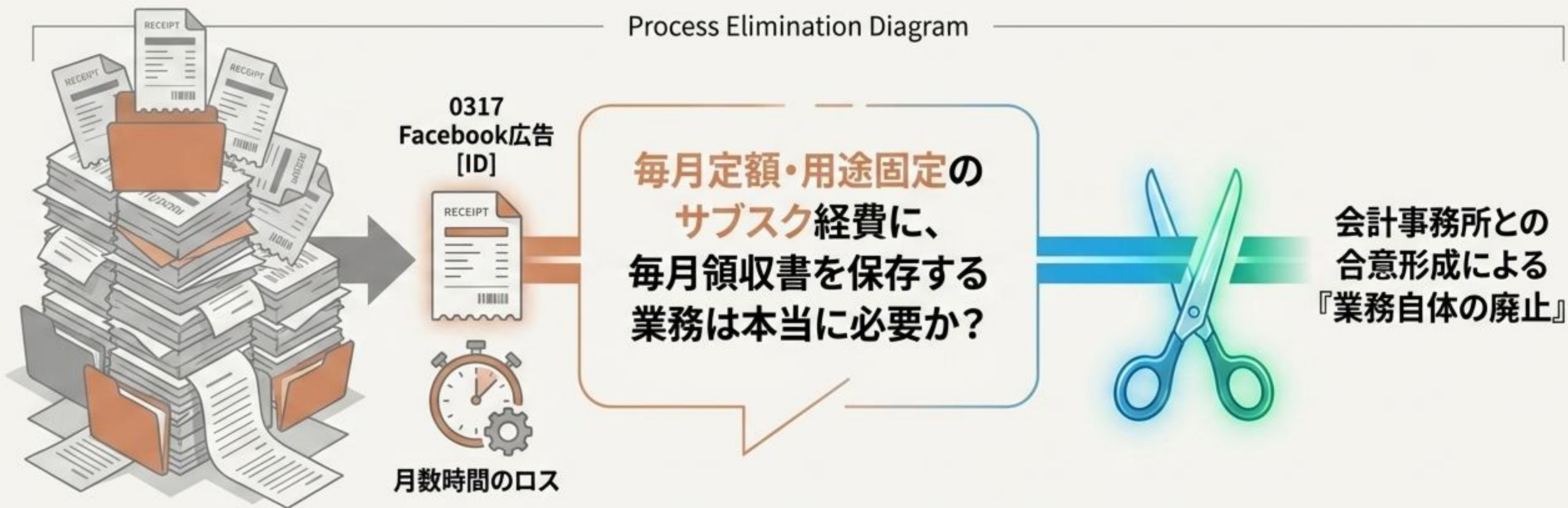


現在の拡張性：アクティブな広告キャンペーンをシステムが自動検知。月次シートを自動生成し、必要な枠組みを動的に構築。スタッフは「新規URLを登録するだけ」。

【Case 4】「最強の自動化」はシステム化ではない

クレジットカード領収書・請求書の照合保存

Process Elimination Diagram



「お金を生まない時間」をゼロにする、発想の転換。

4つの変革がもたらした多角的なROI（投資対効果）

Diagnostic
Comparison Matrix

作業時間の削減

正確性の向上

心理的負荷の軽減

Web数値集計

毎日の
手作業が0へ ✓

コピペミス
完全消失 ✓

日々のちまちま
作業から解放 ✓

CV反映

リアルタイム
即時反映 ↗

入力漏れゼロ ✓

スパム判別の
手間消失 ✓

イベント管理

月次の設定
作業ゼロ ✓

動的紐付け
による確実性 ✓

数式崩れの
恐怖から解放 ✓

領収書保存

数時間の
ロスが0へ ↗

該当せず
(業務なし) ✓ N/A

命名規則の
プレッシャーゼロ ✓

質的变化：スタッフの「意識」はどう変わったか

自動化の真の価値は、生み出された時間で「人間が何を考えるようになったか」にある。

これにお金を生まないのに
なんで時間かけてるんだろう...



この自動化されたデータを使
って、次どう改善するか。



機械が働き、人が心を通わせる組織へ

一連の業務自動化による最大の成果は、システムそのものではありません。
日常業務を問い直す文化が根付き、創出された時間を顧客対応と改善に使えるようになったことです。

機械が働き、人が考える。

CASE 02

住宅会社B社

バックオフィスの定型作業を減らし、
経理データを経営判断へつなげる

原価計算 | 請求書発行 | 紹介案件 | 電子請求書管理

CASE 02

住宅会社B社

「データ入力」から「データ活用」へ。

AI-OCRとシステム連携による、バックオフィス業務の変革

これまでのバックオフィス業務に 潜んでいた「見えないコスト」



膨大な手作業: 月末月初に集中する転記・照合・紙の管理

人的エラーの連鎖:
1つの誤入力引き起こす手戻りと確認作業の無限ループ

精神的負荷（プレッシャー）:
「間違えられない」という心理的重圧と属人化

経営判断の遅れ:
データ集計に時間がかかり、リアルタイムな数値把握が困難

単なる「作業時間の浪費」ではなく、
「心理的安全性」と「データの鮮度」が奪われていた。

働き方を進化させる3つの自動化アプローチ



1. AI-OCR連携

手書き文字や多様なPDFフォーマットをAIが自動解析・データ化。目視確認と手入力を排除。

2. クラウド自動処理

Google Driveやスプレッドシート上で、データの自動集計・照合・振り分けを瞬時に実行。

3. 外部システム連携

ANDPADやChatwork等の既存ツールとAPIでシームレスに接続。

Project 1: リアル原価計算および資金繰り表への反映



【Before: 手動の限界】

プロセス: ANDPADから3ヶ月分の原価データをDL。
担当者が月30分～1時間かけて手作業で集計・付き合わせ。

ペイン: 膨大なデータ量によるミス・誤入力リスク大。
月末の経理リソースを圧迫。

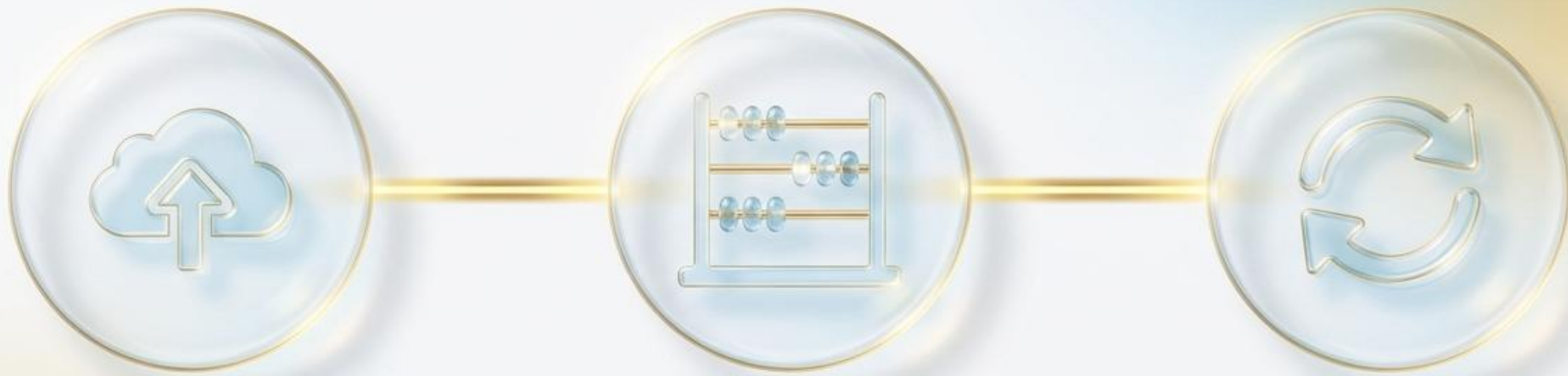


【After: 瞬時の整流化】

プロセス: Google DriveへExcelをアップロード
+ 「集計ボタン」のワンクリックのみ。

解放: 処理時間はわずか5分。完全自動化により
人為的ミス介入の余地ゼロへ。

Project 1 - 自動化の裏側 (Under the Hood)



Step 1: データの投入

Google Driveへのアップロード検知

Step 2: 自動仕分けと計算 (5分間の内部処理)

事業部・店舗ごとのカテゴリーへデータを
自律的に振り分け・集計

Step 3: 資金繰り表への同期

1時間おきに最新の原価データを
長期資金繰り表へ自動同期

成果：「リアルタイムでの原価把握」が実現し、経営陣の意思決定スピードが劇的に向上。

Project 2: 請求書発行業務の自動化



【Before: ボトルネックの発生】

プロセス: 営業から請求依頼書（PDF）が一度に20件近く集中。

ペイン: 売上報告との一致確認後、1件ずつExcelひな形へ手動で転記。



【After: フリクションレス処理】

プロセス: 指定フォルダへの「PDFアップロード」のみで完了。

解放: 20件の書類も瞬時にデータ化。目視確認と手作業転記の工数がゼロに。

Project 2 - AI転記とフェイルセーフ設計



Project 3: ご紹介キャンペーン業務（受領書・ギフト券）

【Before: 物理保管と追跡の限界】



手書き用紙をスキャン・印刷。工事完了・入金まで数ヶ月間、物理的に保管し手元で追跡。

【After: ペーパーレスと忘却の自由】



Cloud Waiting List

紙の保管ゼロ。PDFアップロードでAIが自動読み取りし、「待機リスト」へ即時登録。
長期間の案件追跡をシステムに委ね、「忘れても大丈夫」な環境へ。

Project 3 – 自動照合と書類の自律生成



Step 1: 自動データマッチング

入金完了実績Excelをアップロードするだけで、システムが「待機リスト」と自動照合。

Step 2: 金額の自動算出

紹介用紙の条件と工事全体の最終金額を照らし合わせ、特典金額を自動算出。

Step 3: 書類の自動生成

入金確認と同時に、Word受領書2種（紹介者用・契約者用）を自動作成。

長期間にわたる「案件の追跡漏れ」を完全に防止。

Project 4: 電子請求書のダウンロード・管理業務



【Before: ログインとリネームの迷路】

毎月各社システムへ個別ID/パスワードで手動ログイン。
「金額_会社名_支払い日」へ手作業でリネームし、
共有ドライブへ格納。



【After: ハイウェイ化された管理】

パスワード管理ツールでログイン負担を排除。
DLしたファイルは「アップロードするだけ」。
月に何度も繰り返される単純作業からの完全脱却。

Project 4 - 自律型ファイル管理 (Autonomous Filing)



System Action 1: 自動解析

アップロードされたPDFの中身をシステムが瞬時に自動解析。

System Action 2: 自動リネーム

抽出したデータを元に「金額_会社名_支払い日」のルールに従いファイル名を自動変更。

System Action 3: 自動ファイリング

指定された「確認済みフォルダ」へ自律的に移動・整理。

導入効果サマリー: 経理部門のデジタルトランスフォーメーション

	工数削減 (Manual Time)		ミス防止 (Error Risk)	心理的負荷 (Mental Load)	属人化排除 (Standardization)
1. リアル原価計算・ 資金繰り表同期	手作業1時間	5分待機	ヒューマン エラー排除	月末の重圧 から解放	システム 自律処理
2. 請求書発行業務	手動転記	アップロード のみ	AI完全転記	大量処理の 安心感	フェイルセーフ 設計
3. ご紹介キャンペーン 処理	物理管理	自動 リスト化	自動 マッチング	追跡漏れの 不安解消	無人化
4. 電子請求書管理	個別DL	一括 アップロード	リネームミス 排除	単純作業の 疲弊解消	ユニバー サル化

4つの「点」の改善が連結し、
バックオフィス全体の「面」でのパラダイムシフトを達成。

現場のリアルな声：もたらされた「心理的安全性」



「もう間違える
ことがなくなって、
本当にすごく
楽になりました！」

(資金繰り表への反映が自動化され、
狂いが一切なくなった安心感)



「大量の依頼が来ても、
アップロードするだけで済
む圧倒的な安心感。」

(手作業のボトルネック解消による
月末のプレッシャーからの解放)

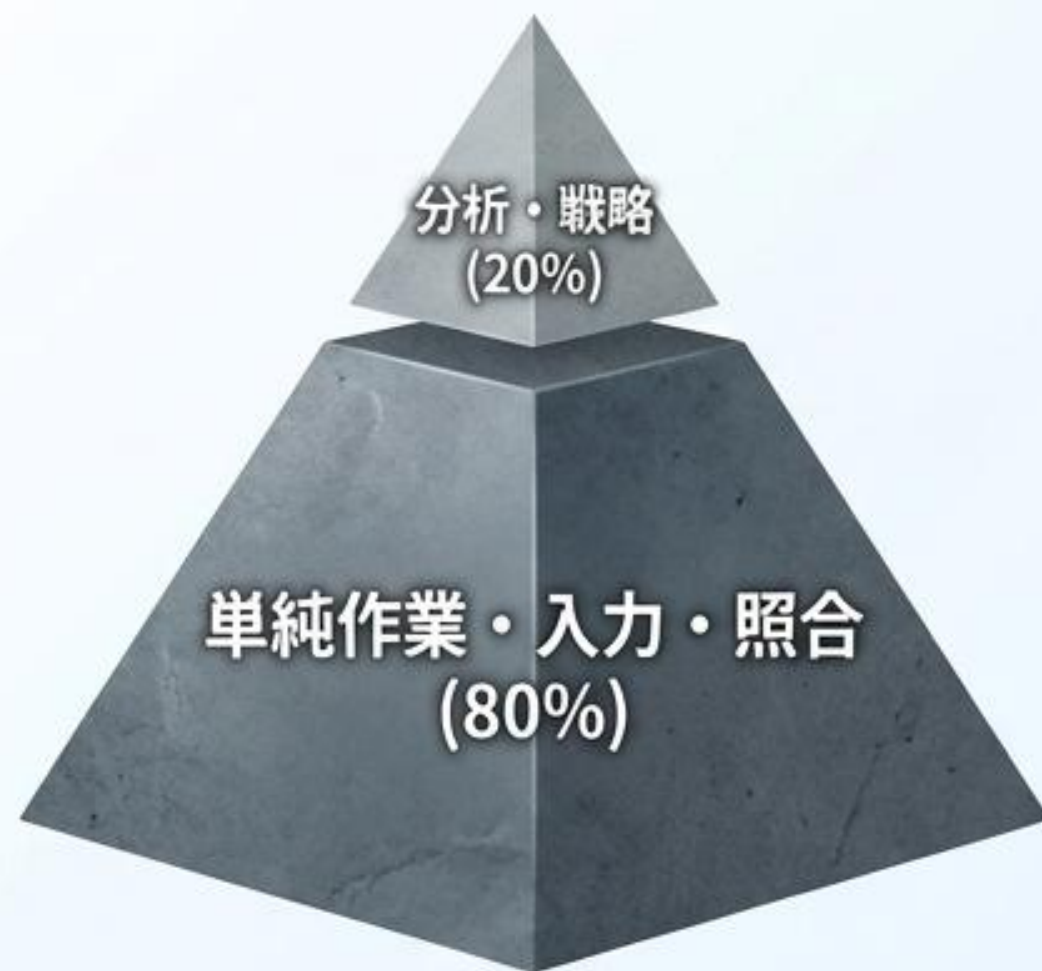


「以前は不安で何度
も見直していた作
業が、システムを信
頼して手放せるが、

システムを信頼して
手放せるようになった。」

(追跡漏れリスクの排除と、
フェイルセーフ機能への信頼)

「作業」から「価値創造」へ (The New Paradigm)



リソースの大半が「入力・照合・検索」という過去の処理に奪われていた。



システムが処理したデータを承認し、正確なデータに基づいた「未来の判断」に100%集中できる体制へ。

自動化の真の価値はコスト削減ではなく、
経理部門の「高度化」と「人間本来の思考能力の解放」にあります。

作業から、価値創造へ

自動化の価値は、単なるコスト削減にとどまりません。
経理データをリアルタイムに把握し、人間本来の思考と判断に時間を使える状態をつくりました。

機械が働き、人が考える。

成果を生んだのは、ツール導入ではなく “業務の流れ”そのものの再設計

01 小さな反復作業から着手

毎日・毎月繰り返す入力、転記、保存を優先して自動化。

02 人の判断と機械処理を分離

例外対応は人、定型処理はシステム。役割を明確に切り分ける。

03 蓄積データを次の改善に活用

集めるだけで終わらせず、可視化・照合・意思決定につなげる。

まずは、毎週・毎月発生する“ちまちま作業”を洗い出すことから。